



ひだまり

第39号

2009年6月

目次

今日日本

身边的环保活动



人物采访

大学生の環境活動の 活性化をめざして



発行 財団法人国際文化フォーラム
編集人 中野佳代子
編集・制作 飯野典子
千葉美由紀
長江春子
翻訳・校正協力 シンプルデザイン
執筆協力 原島陽子

財団法人国際文化フォーラム (TJF)
〒163-0726
東京都新宿区西新宿 2-7-1
新宿第一生命ビル 26 階
電話：81-3-5322-5211
ファックス：81-3-5322-5215
http://www.tjf.or.jp/
E-mail: hidamari@tjf.or.jp

情報満載の「くりっくにっぽん／点击日本」！

<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/zh/>



皆さんはもう「くりっくにっぽん／点击日本」ウェブサイトを訪れてみましたか。「くりっくにっぽん／点击日本」では『ひだまり』に掲載している「今日日本」や「人物采访」の記事をHTMLで読むことができます。記事や写真をコピーすることができるので、必要な文章や写真をコピーして、自分で教材を作ったり、パワーポイントで見せたりすることができます。しかも、右上の言語の切り替えボタンをおせば、日本語と中国語の両方で記事を読むことができますので、生徒のレベルによって使い分けることができます。ただし、授業外の目的で使う場合には著作権の問題がありますから、必ず国際文化フォーラム (TJF) に連絡してください。

さらに、「くりっくにっぽん／点击日本」ウェブサイトでは、『ひだまり』には載っていない情報や写真も紹介しています。前号から『ひだまり』の「今日日本」「人物采访」にマークがついているのに気づきましたか。このマークは「関連情報あり」の印です。このマークを見つけたら、「くりっくにっぽん／点击日

本」ウェブサイトを訪問してみてください。例えば、前号の『ひだまり』第38号には、中 高校生の人気のある職業上位10のリストが掲載されていますが、「くりっくにっぽん／点击日本」では、中 高校生の上位20の職業、さらに小学生の上位20の職業も掲載しています。また、高校卒業後の進路を示すグラフも見ることができます。ほかに、「人物采访」で紹介した詩織の詳しいプロフィールを知ることができます。今号では、風呂敷で瓶を包む手順を写真で紹介したりしています。さらに、こういった記事を素材にしたクラスアイデア (授業の活動案) も紹介しています。素質教育をめざした授業のヒントがここにはあります。

日本の情報を紹介するウェブサイトはほかにもありますが、「くりっくにっぽん／点击日本」ウェブサイトでは、今の日本の情報を日本語と中国語の両言語で読んだり、クラスアイデアを得たりすることができるのです。ぜひ皆さんも活用してみてください。そして、新しいアイデアがあったら、ぜひ clicknippon@tjf.or.jp にお寄せください。

風呂敷を包む手順



身边的环保活动

近年来，全球出现了许多环境问题，例如：气候变动、臭氧层被破坏等等。这些环境问题源于人类各种各样的活动，并且二者之间有着复杂的联系。要想解决这些环境问题需要各个国家和地区等多层面的努力，需要建立超越国界的合作体制。同时，还需要每个人树立环保的意识及采取具体措施。本期以人们在日常生活中开展的环保活动为中心，向大家介绍在日本人们为解决环境问题所做的各种各样的努力。



版面中标有这个图标处表示在“点击日本”的网页上登有相关信息。<http://www.tjf.or.jp/clicknippon/>

3R

在日本，环保活动也是以关键词“3R”为指导来推进的。3R指的是减少 (**Reduce**)、再利用 (**Reuse**)、和再循环 (**Recycle**) 三个词的首字母。

减少：减少使用能源和资源，尽可能不制造垃圾！

无论在家庭还是工作单位都要注意随手关灯、随手关掉水龙头等，这就是“减少”的基本理念。日本环境省倡议：夏天把空调的温度设在 28 度，并提倡大家穿戴在这种温度下也能够凉爽舒适地工作的服装，比如：男性不打领带、不穿西服外套的“凉爽办公”（COOL BIZ）活动^{注1}。此外，一些个人能够简单实现的“减少”等活动也受到大家的关注。

环保提包 (Eco Bag)

从 1970 年代后半期开始，在超市等商店开始为顾客免费提供廉价、结实的购物塑料袋(以下简称：塑料袋)。在那以前，人们在买东西时大都自己带篮子，或是使用纸袋。现在，据说日本全国每年使用的塑料袋大约在 300 亿个左右。如果把这个数字换算成石油能源的话，大约相当于 1,500 万桶。



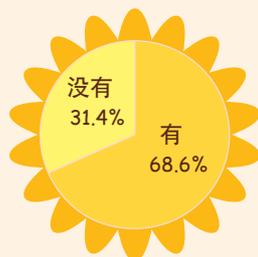
不需要购物塑料袋的客人，可以将收银台上预备的“不要卡”放进购物框里。

近来，为了减少使用塑料袋，在买东西时自带提包的人逐渐增多。这种提包被称为环保提包，或者叫自备提包。同时，对原来免费的塑料袋，有些地区的行政部门制定了收费的条例；在有些超市买东西时，谢绝使用塑料袋的顾客可以得到积分，用得到的积分可以享受商品打折或得到礼品等优惠，并且，引入类似制度的超市在不断增多。大约在两年前，某名牌商家出售的环保提包大为流行，由此引发了一场“环保提包热”。如今，在商店里能买到设计入时、用途多样的不同种类的环保

提包。

其实，过去在日本是用包袱皮来装东西的。四方形的包袱皮，出行时可以把它折叠成小块，装东西时不论大小、不分形状一包一裹既可。这种用起来方便、能够反复使用的包袱皮，

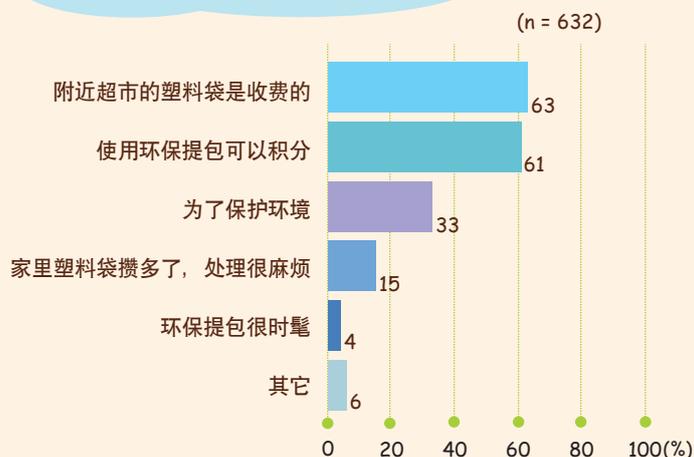
问 1：您有环保提包吗？



(n = 437)



问 3：您带环保提包的理由是什么？



(n = 632)

如今让人们开始重新思考和审视了。

<http://homepage3.nifty.com/furoshiki/>

注 1：COOL BIZ：是 Cool Business 的造语。



用包袱皮将瓶子包起来。



将包袱皮4个角系起来做成的提包。

© Furoshiki Study Group

© Furoshiki Study Group

自备筷子

在日本，饮食店里大多使用一次性筷子，或者去便利店里买便当一般也会附带一次性筷子。所谓一次性筷子是有一多半被切开，使用时把剩下的部分用手掰成两半，既可使用的筷子。这种筷子用完后大都会废弃扔掉的。据日本林野厅统计，日本每年消费的一次性筷子大约 250 亿双。最近，在饮食

店使用自备筷子的人逐渐增多，因为他们认为“用完就扔掉的一次性筷子太浪费了”。并且，为了减少一次性筷子的消费量，一些便利店店员会主动询问顾客是否需要一



© TUF

次性筷子，甚至需要付费使用一次性筷子的便利店也在增多。

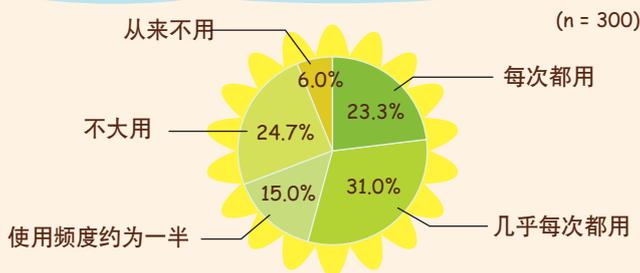


© TUF

自备筷子。为了携带方便，开发出各种包装款式。

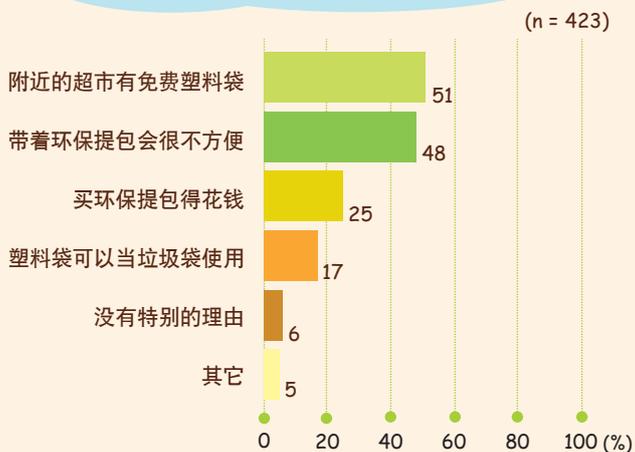
(问 1 中回答“有”的人回答问 2)

问 2：您买东西时，使用环保提包的频度大概为多少？



资料：《有关环保提包的意识调查》Ishare Inc., 2008 年

问 4：您不带（没有）环保提包的理由是什么？



资料：《有关环保提包的调查》goo research 和读卖新闻社共同策划调查，2007 年

《哪种观点对环境有益？》

即使是为了保护环境的行为，由于包含了各种各样的因素，因此，站在不同的立场上会产生不同的意见。例如：就环保提包而论，有人认为不使用塑料袋能够减少垃圾的产生，还能够节省生产塑料袋的原料。而另一部分人则主张：生产、运输、出售环保提包要比塑料袋更浪费能源，而且原来用买东西时用过的塑料袋装垃圾的人们肯定会使用其它塑料袋来装，这样仍然会对环境造成污染。同样，就使用一次性筷子的问题，很早以前就有各种各样的争论。

虽然对于所有的事情，无法亲眼确认其真实性，但是我们不应当仅仅把环保活动当作一种流行趋势，而是应该持有自己的见解来参与，这一点很重要。



赞成使用一次性筷子！



- 在饮食店，不反复使用洗刷过的筷子，这样很卫生。
- 日本产的一次性筷子大部分使用加工柱子或木板后剩余的废材，使用已经没其它利用价值只能扔掉的废材是对资源最有效的利用方式。
- 日本国产的一次性筷子大部分使用间伐木材，所以，使用日本产一次性筷子是对日本国内森林规划事业的发展做贡献。

反对使用一次性筷子！



- “用完就仍”的做法不可取。
- 虽然日本有大量的木材储备能够保证生产一次性筷子的供给需求，但由于运输成本以及劳动成本很高，所以日本产的一次性筷子一般价格较高，在日本使用的一次性筷子的 90% 以上都是外国产的。这与东亚及东南亚的森林采伐有直接关系。

再循环：变为其它商品重新面世！

把来自家庭和企业的垃圾按不同用途进行分类、回收，将其加工成原料进行再利用。1980年代以前，将来自家庭的垃圾分为可燃垃圾和不可燃垃圾进行处理，1990年代以后，《容器包装再循环法》等促进资源有效利用的法律相继出台，分类回收方式进一步细化。具体的分类方法因人而异，最多的分类法有20~30种，不过一般情况下，主要分成以下几类：瓶、罐、塑料瓶、容器包装塑料、食品托盘、牛奶纸包装、电池、灯泡、废纸、报纸等。用牛奶纸包装制成的手纸、用塑料瓶制成的合成纤维、用再生纸印刷的书籍等都是使用再生原料生产商品的例子。

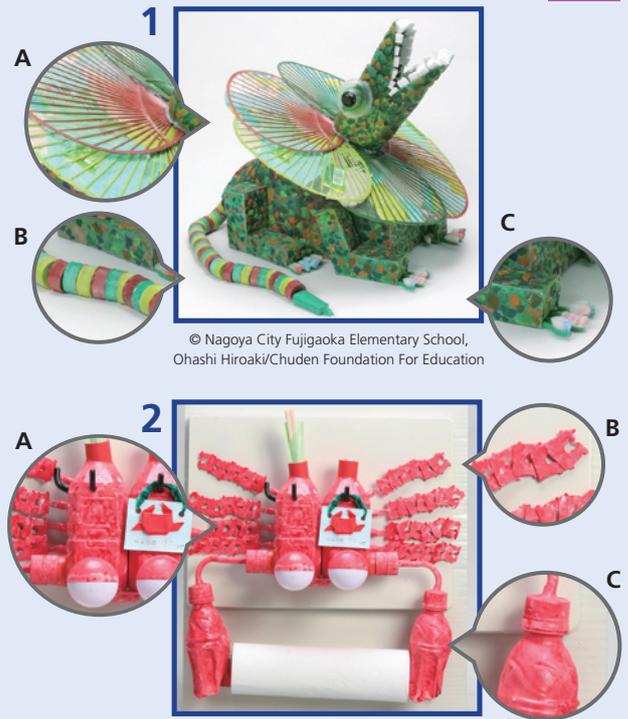
近年来，许多企业进行了大规模的改制尝试，以期建立物品再循环的机制。1998年制定了《特定家庭用机器再商品化法》(通称：家电再循环法)。空调、电视机、冰箱、洗衣机由



将可以再循环的易拉罐（铝质、铁质）、塑料瓶及玻璃瓶分类回收。

出售商店或地方行政部门予以回收，在再生工厂处理后，进行二次利用。其目的是为了减少废弃物，对资源进行循环利用。

是用什么材料做的？猜猜看！



© Nagoya City Fujigaoka Elementary School, Ohashi Hiroaki/Chuden Foundation For Education

© Ena City Kami Yahagi Elementary School, Ishiguro Kota/Chuden Foundation For Education

答案见“点击日本/Click Japan”

上面两组照片拍的是日本小学生废物再循环大奖赛（Children Foundation For Education主办的）的获奖作品。1是2008年度获奖作品，2是2005年度获奖作品。

再利用：再一次使用！

从个人层面上来说，日本一直以来，有对已经用过的物品进行再利用的文化传统，并内涵于“可惜”一词。



旧货商店（又叫：回收再利用商店）。出售的商品，从家电到家具等，应有尽有。

例如：将孩子穿小的衣服留给弟弟或妹妹及送给熟人(的孩子)继续穿,叫“拾旧衣服”；用过的纸袋或者包装纸叠起来收好，以备日后再用等。从商业层面上来说，回收、出售衣物以及家具等物品的旧货商店在日本全国各地都有，尤其是旧书店已经形成了巨大的商业市场。能够多次使用的空瓶(可再利用瓶)也被人们回收再利用。随着经济的不断发展、物质生活的日益丰富，人们用完就扔、不考虑再次利用的事情也逐渐多了起来。然而，伴随3R理念逐渐深入人心，对于再利用的传统，人们开始重新思考和审视。

“可惜”

日语的“可惜”（罗马字标音为 MOTTAINAI）一词，一说源于佛教，据说是表达一种对事物丧失了本来应有姿态的惋惜、感叹之情。现在该词通常用于物品没有充分发挥其作用和价值而被舍弃时表达的一种惋惜之情。

2004年，在环境领域首次获得诺贝尔和平奖的肯尼亚女性旺加里·马塔伊，在获奖的第二年访日时，接触到“MOTTAINAI”一词，并得知这个词不但一语道中了3R的真谛，而且它包含着对自然万物的关怀、感谢和敬意(Respect)。受到启发和感动的马塔伊在纽约联合国总部举行的联合国提高妇女地位委员会上倡议，应该“在全世界范围内开展MOTTAINAI活动，对资源进行有效利用”，于是，全世界范围内掀起了MOTTAINAI的活动。

在日本，朝日新闻社成立了MOTTAINAI活动事务局，并且在许多企业和团体的协助下从多方面展开活动。

MOTTAINAI 网站：<http://mottainai.info/>

【关键表达对照】

减少 (Reduce): リデュース	再利用 (Reuse): リユース	再循环 (Recycle): リサイクル
凉爽办公 (COOL BIZ): クールビズ	环保提包 (Eco Bag): エコバッグ	购物塑料袋: レジ袋
包袱皮: 風呂敷	自备筷子: マイ箸	可惜: もったいない
拾旧衣服: おさがり	可再利用瓶: リターナブル瓶	洒水: 打ち水
热岛: ヒートアイランド		

传承下来的环保智慧

吃当地自产的食物、不剩饭菜、还能用的东西不扔掉接着用、尽可能不制造垃圾、不驾驶私家车而是乘坐公共交通工具……，这些可以说都是人们采取的环境保护行动，这些行为在数十年前的日本是极其自然的生活现象。虽然人们现在已经无法回到过去，再去过与过去完全一样的生活，但是人们在学习过去的环保智慧，并在尝试将可取的经验为今天所用。

大江户洒水活动

洒水，特指夏季在马路上或是庭院里洒水，让周围变得凉爽。为什么洒水会给人带来凉爽的感觉？因为在汽化热的作用下，可以使地表的热量散发到空气中。根据某研究机构的研究结果表明，在东京都内能够洒水的区域里，如果每平米能洒一升水的话，气温可以下降2度。此外，还会产生洒水让人感觉凉爽的心理效果。



© Mission Uchimizu Headquarters

参加银座“大江户洒水活动”的人们。

最近，在一些大城市出现了“热岛”（Heat Island）现象，即大城市内的气温与周围地区相比异常升高的现象。由于大量使用空调等设备而导致热岛现象，同时导致电力消费增加，这种恶性循环使电力不足问题越来越严重。2003年夏天，日本的一些NPO（非营利的民间组织）在网上呼吁人们参加“大江户洒水活动”。这是一次借鉴过去的智慧和经验，希望通过大规模的洒水来降低城市气温的积极尝试。

由于电视和收音机里也作了报道，在2003年8月25日正午举行的日本首次洒水活动，有许多人都参加了。在当天傍晚的电视天气预报中，播音员一边看着气象数据系统的画面，一边解说：“通过本次洒水，估计东京的气温大约降低了1度。”可见这次活动的轰动性之大。在那之后，每年都定期举行这项活动，据推算2008年的参加人数，超过了700万人。而且，为了节省水资源，这项洒水活动的基本原则是不使用自来水，而是利用洗澡剩下的水或者雨水。

剩下来的洗澡水

在日本的多数家庭里，每天洗澡已经成为习惯，每次放在浴缸里的洗澡水大约为200升。大多数家庭洗完澡之后的水都不倒掉，而是用来洗衣服、清扫卫生或是浇花等。为了方便将洗澡水引入洗衣机中再利用，市场上可以买到一种带有水泵的专用软管。



©TJF

把浴缸里用过的洗澡水，用水泵抽到洗衣机里。

《可惜老奶奶》

2004年，讲谈社出版的童话《可惜老奶奶》讲的是这样一个故事：每当有人做让人觉得可惜的事，可惜老奶奶就会出来语重心长地说“可惜啊”，并且利用原打算扔掉的东西做了许多有用的事。现在这个故事正在报纸、杂志上连载。从2008年开始，“可惜老奶奶的世界探访展”在日本全国进行巡回展览，通过这个展览介绍地球上出现的问题以及被卷入这些问题的全世界各国儿童现状。



© Shinju Mariko, 2004, published by Kodansha



じゃーじゃー
おみずの だしっぱなし
もったいなーいと
いってくるよ

可惜老奶奶就会来说：
“水龙头的水一直在放，真可惜！”

<http://www.mottainai.com/>

<http://www.mottainai.com/english/top.htm>

【参考资料】

《有关环保提包的意识调查》：「エコバッグに関する意識調査」（株）アイシェア、2008年
《有关环保提包的调查》：「エコバッグに関する調査」gooリサーチと読売新聞社による共同企画調査、2007年
《特定家庭用機器再商品化法》（家电再循环法）：「特定家庭用機器再商品化法」（家電リサイクル法）
《容器包装再循环法》：「容器包装リサイクル法」
《可惜老奶奶》：『もったいないばあさん』講談社、2004年

雑学博士

次の1～7のことは、「今日日本」に出てきたものです。ヒントを見て、どんな意味か考えてみてください。また、日本でリサイクルされているものに○をつけてください。コラム「再循环：变为其它商品重新面世！」にヒントがありますよ！

1. 牛乳パック（「牛乳」が入っています）
2. ペットボトル（英語からきた外来語です。ジュースなどが入っています）
3. わり箸（この箸はたいてい一度しか使いません）
4. レジ袋（スーパーでもらいます）
5. 瓶（これは、意味がすぐにわかりますね）
6. 缶（これも、漢字を見て想像できるでしょう）
7. エアコン（暑い時や寒い時に使う電気製品です。もともとは英語で、省略して使っている外来語です）

解答・解説は「ひだまり」ウェブサイトに掲載しています。

<http://www.tjf.or.jp/hidamari/index.htm>

大学生の環境活動の活性化をめざして

啓太……大学4年生★、東京在住、2008 エココンの大学生代表

飛翔……大学2年生★、埼玉在住、2009 エココンの大学生代表

今号は、全国大学生環境活動コンテストを支える大学生スタッフに話を聞きました。



啓太

飛翔

★学年は取材当時（2009年2月）のもの。

日本全国大学生環境活動竞赛（通称：環境竞赛 / Eco Con） / 全国大学生環境活動コンテスト（通称：エココン）

日本全国大学生環境活動竞赛は以开展環境活動の大学生団体を対象、由从事与環境相关的各界社会人士以及学生评委进行公开评选，从多方面、多角度对学生开展的环境活动进行评价和表彰。该竞赛从2003年开始每年举办一次。竞赛的主要目的是希望通过评选活动，使得在日本全国开展环境活动的各个团体能够共同分享相关知识和技术信息，相互学习，激励大学生参加环境活动的热情。该竞赛的联合主办方——东京电力，将环境活动作为企业社会责任（CSR, corporate social responsibility）的一环，从各方面协助竞赛的运营工作。在为时两天的会期中，包括参赛人员在內，大约有1,000多人参加。竞赛的执行委员会主要由从事环境活动的社会人士组成，而竞赛的策划与运营则由执行委员会下属的事务局工作人员具体操办。事务局的常勤成员由20～30名學生及数名社会人士组成。

Q: 2008年12月に6回目のエココンが2日間にわたって開催されました。このエココンには何団体が参加しましたか。また、選考の過程を教えてください。

啓太: 58団体が参加しました。1日目は58団体を8グループに分け、グループ内で発表を行い、各グループで1団体を選びました。そして、選出された8団体で2日目に最終選考を行いました。各団体は5分間という短い時間のなかで自分たちの活動内容を発表しました。また、エココンではコンテスト以外にも、テーマごとに討論を行ったり、環境問題の専門家の話を聞いたりする分科会や展示コーナーなども設けています。



© Ecocon 2008

演劇仕立てにしたり、踊ったりと、団体ごとに工夫をこらした発表を行う。

Q: どういった活動に対する評価が高いですか。

飛翔: 今年は、八つの大学の学生が集まって活動している名古

屋の団体が最優秀賞を受賞しました。この団体は、地域の映画館と連携して再利用できるコップを導入したり、レストランからもらった廃食用油や竹の間伐材を使ってキャンドル(ろうそく)を作ってキャンドルナイト(時間を決めて電灯を消し、ろうそくの明かりだけで過ごすという活動)を行ったりしています。

啓太: 前回のコンテストでは、携帯電話から見ることができるホームページに環境クイズを作成している団体が最優秀賞を受賞しました。前々回は地球にも人にも優しく、気軽に取り組める行動を、おしゃれに楽しくわかりやすく提案する無料情報誌を発行している団体が最優秀賞を受賞しました。また、地域の活性化や教育などの分野に環境活動を広げている団体や、活動の成果がすぐには見えなかったり、数値では測りにくかったりする団体の活動も評価されていると思います。

飛翔: 参加している団体の活動内容は、実にさまざまです。ごみ問題に取り組むところもあれば、環境教育など啓発に力を入れるところもあるし、海外で環境調査をしている団体もあります。

Q: なぜエココンに関わるようになりましたか。

啓太: 大学の外で、社会に目を向けた活動をしたと思っていました。わたしは環境活動に直接関わってはいませんが、大学生を対象とするコンテストを大学生が企画し運営していることと、環境問題をコンテストの素材として使っているというのがおもしろいと思いました。

飛翔: 環境問題は毎日のようにメディア（新聞やテレビ）で取り上げられていますが、自分には何ができるんだろうと考えました。そこで、「身近なところから変える」ことを目標にしている大学内の環境活動サークルに入って活動することにしました。大学生協同組合と協力してレジ袋を削減したり、大学と協力して学園祭で使う使い捨て容器をリサイクルしやすい容器にしたりしています。でも、大学内だけでなく、他大学の学生や社会人もいっしょに何かをやりたいと思いました。

Q:なぜコンテストの形式をとっているのでしょうか。

啓太: スタッフになった当初は、なぜコンテスト形式でやるのかと悩むこともありましたが、ただ並べて見せるだけの品評会ではなく、コンテストの形式をとるからこそ、それぞれの団体が自分たちの強みをより明確に打ち出すし、他団体はそういった発表を見て学ぶことも多いのです。

飛翔: 参加する団体は、エココンで自分たちの活動をアピールするために、これまでの活動を冷静に振り返り、今後の活動をみんなで話し合います。エココンに参加した多くの団体から、今後の課題だけでなく、自分たちの活動のいいところを再発見でき、次に進む道筋が見えた、といった感想が寄せられます。わたしも悩んだことがありましたが、そういった感想を聞いて、コンテストの形式でいいのだと思うようになりました。

啓太: ただ、活動を点数化して単に優劣を競うのではなく、参加する団体の活動が次の年に、より活性化するようなコンテストにしたいと思っています。そのために、エココンでは、選考以外の場も大事にしています。例えば、2008年のエココンでは、選考のあとでグループごとに、今後の活動に生かせるものは何かについて意見交換をしました。また、グループ討論や交流会を積極的に設けています。

Q:今後エココンがどのようになっていけばいいと思いますか。

飛翔: 今、ちょっとした環境ブームで、大学でも環境活動をするサークルが多く生まれています。でも、一方で、環境サークルに入っている人は、周りの友達から、「すごいね」という感じで見られたりします。「すごいね」じゃなくて、「ああ、そうなんだ」というように普通に見られるような状況になればいいなと思います。そして、普段、環境活動をしていない人でも気軽に来て、楽しめるようなエココンにしたいと思っています。

Q:エココンに関わって、どんなことを学びましたか。

啓太: 割り箸をやめるためにマイ箸を持ち歩いたり、レジ袋を削減するためにマイバッグを持ち歩いたりする取り組みを見て、そういった取り組みがすぐに温暖化を止められるわけじゃないし、マイ箸やマイバッグが本当に環境にいいのかわからないじゃないか、と思っていました。でも、そういった活動はそこで終わるのではなく、多くの人を巻き込んだり、地域を活性化したりしながら、広がっていくことがわかりました。だから、環境問題をただそれだけで考えるのではなく、社会のいろいろなものとのつながりのなかで考えながら、環境問題に関わっていきたいと思うようになりました。

飛翔: エココンに参加した団体や選考委員から、「学生の熱い気持ちに動かされた」「わたしたちの思いがわかっただけでうれしい」といった声をよく聞きます。人は、最終的には、頭よりも心で動くものだと思うので、自分の思いをほかの人にちゃんと伝えるように心がけるようになりました。そして、自分の小さな力が社会にいい影響を与えられるようなところで働きたいと思っています。



学生スタッフ。

わたしの好きなもの

好きな言葉

啓太: 全力疾走

飛翔: 志高頭低



趣味

啓太: スポーツ。スポーツをすることもみることも好きです。

飛翔: ミュージカル鑑賞です。(特に「レ・ミゼラブル」が好きです。20回以上みました)

好きな色

啓太: いろいろな色。その時の気持ちを表す色が好きです。

飛翔: 赤です。人を元気にしてくれるから。



好きな場所

啓太: たくさんありますが、旅行で行った京都は気持ち落ち着いて大好きになりました。

飛翔: 家です。家族の温かさ、ありがたさを感じることが出来るから。

为进一步提高和推广大学生环境活动



启太，大四学生*，居住在东京都，
2008 环境竞赛大学生代表



飞翔，大二学生*，居住在埼玉县，
2009 环境竞赛大学生代表

本期我们采访了日本全国大学生环境活动竞赛的学生工作人员。

★采访当时（2009年2月）的学年

问：2008年12月举办的第六届环境竞赛，为期两天。共有多少团体参加了本次竞赛？另外，能否谈谈评选的过程？

启太：共有58个团体参加。第一天，将58个团体分成8个小组，在小组内报告各自的活动情况。然后，由每组选出一个团体（整体共选出8个团体），参加第二天的最终评比。每个团体的活动内容报告时间只有5分钟，为了能让大家充分理解自己的活动内容，参赛团体或以戏剧、或以舞蹈等手法精心设计了各自的报告形式。环境竞赛中还设有不同主题的研讨会、环境问题专家演讲等分项，此外，还设有活动介绍的展区等。

问：对什么类型的活动评价比较高呢？

飞翔：今年，由8所大学学生组成的名古屋团体获得了最高奖。他们与当地电影院携手合作搞了一个“再生水杯”活动；还利用餐馆的废油和间伐竹子制作成蜡烛，搞了“烛光之夜”（关掉电灯，只用蜡烛来照明）活动。该活动通过与当地企业以及商店街进行合作，寓教于乐、寓环保于乐的构思，受到了组委会的高度评价。

启太：上届的最高奖获奖者是制作环境智力竞赛题的团体（在手机能连通的网站上发表）；上上届则是发行善待地球、善待人类免费杂志的团体（浅显易懂而且潇洒愉快地介绍可在日常生活中开展的环保活动）获得了最高奖。总的来看，那些以简明易懂的方式介绍环境活动乐趣的团体获得的评价较高。此外，我认为那些通过环境活动，为社区带来活力、促进教育活动开展的团体，以及从事一些没有速效性、不能立竿见影，或是从数字上较难评估的活动的团体也能够获得较高评价。

飞翔：参加比赛团体的活动内容的确是丰富多彩的。有的致力于垃圾问题，有的是将重点放在推广环境教育等活动上，还有的团体则是在海外进行环境调查活动。

问：为什么参与环境竞赛的工作？或者说参与的契机是什么？

启太：我想在校外参加一些有益于社会的活动。虽然我自己并没有直接参与环境活动，但我觉得大学生能够策划和运营以大学生为对象的竞赛，并且以环境问题作为竞赛的题材很有趣，所以成了一名学生工作人员，参与了三届环境竞赛。去年还担任了代表一职。

飞翔：环境问题是各家媒体每天必定提到的话题，我想自己能够为此做些什么呢？于是，我参加了大学校内的环境活动小组，该小组的口号是“从自己身边开始改变”。我们与大学生活消费协会合作开展减少购物塑料袋的活动，与大学联手将文化节中使用的一次性容器改为能够作为资源再循环的容器。因不想把活动范围不仅仅局限在校内，希望能够与其它大学的学生以及社会人士联合起来做些事情，于是我成了一名环境竞赛的学生工作人员，并参与了两届竞赛活动，今年我担任代表一职。

问：为什么要采取竞赛的形式呢？对于将环境活动分优劣这一点你是怎么认为的？

启太：刚刚成为工作人员的时候，对为什么要采取竞赛的形式我也曾烦恼过。但是，后来我开始明白与单纯展示活动内容的评比会相比，采取竞赛的形式，各个团体才能更加明确地展现自己的优势，而其他团体可以通过竞赛中的报告会学到更多的东西。

飞翔：参加的团体为了在环境竞赛中宣传自己的活动，需要冷静客观地回顾整个活动过程，聚在一起对今后的活动发展进行商讨。我从参加环境竞赛的许多团体那里听到了这样的感想：通过参加比赛，我们不仅认识到了活动面临的难题，而且能够重新发现活动中的闪光点，对接下来该走的道路也有了清醒的认识。虽然我也曾经烦恼过，但听到了这些感想，才觉得采用竞赛的形式是合乎道理的。

启太：竞赛并不是单纯用分数来衡量活动的优劣，而是通过竞赛激励参加的团体使其能够在下一届竞赛中推出更具有生气的活动。因此，在环境竞赛中，我们也非常重视评选以外的环节。例如：2008年的环境竞赛在评选结束后，还开展了小组研究活动，针对在今后的活动中可以活用的事例交换了意见。此外，还积极举办了小组讨论会和交流会。

问：你认为今后的环境竞赛应该如何发展呢？

飞翔：现在，可以说是掀起了一股环境热潮，大学里出现了许多从事环境活动的小组。但是，在周围的朋友看来，加入环境小组的人“真了不起呀”。而我认为大家不应当抱着这种态度来看待环境活动，如果将来能让大家以“哦，是嘛”的理所当然的眼光来看待此事是最理想的。而且，我希望通过努力让那些平时没有参加环境活动的人也能够轻松地来到环境竞赛的会场，分享其中的无限乐趣。

启太：对于没有加入环境小组的人来说，很难了解环境活动的内容。比如：在大学文化节上，看到环境小组在对垃圾进行分类时，就有很大一部分人会想：“对垃圾进行分类有什么乐趣可言呀”。其实，我们眼前所看到的垃圾分类活动是与其它活动联系在一起的，同时也与在社区等其它场所参与活动的人们联系在一起的。我认为应当通过环境竞赛使得更多的人意识到这种联系的存在。“快乐的环境竞赛”是我们现在的目标，但是，我希望参赛团体获得的不仅仅是快乐，而是能够在比赛结束时带回去一些收获，同时，能够向社会传达一些有价值的信息。

问：参与环境竞赛的工作让你学到了什么？今后打算如何运用这些学到的东西呢？

启太：每当我看到大家不用一次性筷子，自己带筷子；为了减少使用购物塑料袋，自己带提包的时候，我就会想这样的努力不可能立刻阻止全球变暖的趋势，而且自带筷子和自带提包的做法，是否真对环境有益也尚不明确。但是，我已经明白像这样的活动并不是一次性的，它会一直发展下去，将会有更多的人参与进来，社区全体将会更加充满生机和活力。所以，我认为我们不应当只站在环境的角度来考虑问题，而是应当站在社会这个大背景下，在与许多事物的联系中去考虑问题，进而再把它与环境问题联系在一起。

飞翔：我经常听到参加环境竞赛的团体以及评选委员们说：“被学生们的热情感动了”、“我们的想法能被大家理解，太高兴了”。我认为，人最终是因为心动而动，而不是因为头脑理解而动。所以，我现在时刻提醒自己要把自己的想法用心地传给他人。希望能够在为社会带来有益影响的方面尽自己的绵薄之力。